

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 子どもが安心して児童クラブで過ごせるように、普段の様子や健康状態を把握したり、共有したりすることが日々の変化に気付く上で大切になってくることを改めて学んだ。また、子どもの様子を日常的に伝えることは大切だが、時には言いにくいこともあり、その際は事実だけを伝えたり、続くときは精査して伝えたりするなど、保護者に気持ちよく聞き入れてもらえる配慮も必要であると学んだ。言葉の掛け方次第で受け取り方が変わってしまうので気を付けていきたい。
- ◆ 職場倫理は「運営主体の指示があるから」「法律や社会的な道德に規制されているから」という受け身の考えで理解するものではなく、守るべき倫理についての共通理解を支えにして一人ひとりが自主的に考えること、協力し合うことが求められることを学んだ。育成支援は、子どもや保護者に大きな影響を与えることを理解し、職場倫理を明確にして遵守する必要があるということについて考えさせられた。
- ◆ 支援員としての仕事内容を理解し、求められる資質や技能向上のために積極的に研修に参加することが必要だと再認識しました。毎日の出欠確認や子どもの様子の変化に気付き、支援員間で常に情報の共有をする上で必要だと分かりました。常に子どもも保護者も安心して利用できる場所になるよう努めなければいけないと思いました。補助員も、支援員とともに同様の役割をしなければいけないことも分かりました。
- ◆ 放課後を安心して過ごせるように子どもたちを見守り、生活や遊びを通して成長を支えることが大切だと感じました。体調の管理や一人ひとりの気持ちに寄り添い信頼関係を築くことも大切で、学校や家庭と連携しながら子どもの変化に気付いて支援していけたらと思いました。受講して学んだことを参考にして一人ひとりの変化に気付いて丁寧な支援を心掛けていきたいです。
- ◆ 子ども一人ひとりと向き合っていく中で、放課後児童クラブの重要性を理解してもらえるように援助していきたいです。また、支援員と保護者間で子どもの様子を伝え、情報交換をしっかりしていくことが大切です。考え方や表現の仕方はその子によって違うので、意見を尊重しつつ、どんなことでも打ち明けてもらえる支援員になりたいです。子どもたちに寄り添い、子どもたちがより過ごしやすい場所になるよう日々努力していきたいです。